

ドイツ語を学ぶために

成田 克史（国際開発研究科）

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1. ドイツ語への招待……………p. 1 | 2. ことばの学び方……………p. 3 |
| 3. 辞書選び ―事始め― ……p. 4 | 4. 辞書選び ―極め付け― ……p. 6 |



Lufthansa LH 737

1. ドイツ語への招待

「ドイツと言えば、ビールとソーセージですね。」「そう、それにワインやハム、チーズもびっくりするくらい種類が豊富で、楽しめますよ…」

そんなことばを交わしたタクシーの運転手さんに別れを告げると、今度はルフトハンザ LH 737 の座席に縛りつけられて12時間を過ごし、ようやくフランクフルト空港に降り立つ。ドイツだ。色彩、ざわめき、人の動き、すべてが日本と違う。少し緊張しながらも心は躍る。

街へ出る。石造りの歴史的な建物が並ぶ一角、近代的な超高層ビル群、郊外の住宅地、ひとつひとつ建物は違うが、様式が統一され、それがドイツの街の美しさとなっている。空は広い。電線は地中を走り、無骨な電信柱もない。住宅の窓には花が飾られ、軒下に洗濯物をぶら下げた家もない。ドイツ人はよく考える。そして、よいと思ったことを実行する。街の景観にもそれが表れている。

ドイツ語もよく考えて造り込まれた言語だ。文を作るとき、ひとまとまりになる単語は互いにぴったり合うように形を変え、単語同士が緊密に結びつくようになる。家を建てるときに材木の端を凸や凹の形に加工して組むのに似ている。その分、少し手間がかかるが、こうして組み上げられた文は構造が強固で隙がなく、言おうとすることをしっかり伝えることができる。おもしろいのは、語順が日本語によく似ている点だ。例えば「その学生は来週、ひとりでドイツへ飛ぶ」は *Der Student fliegt nächste Woche allein nach Deutschland* と言う。動詞 (*fliegt*) を除けば日本語と同じと言ってよい。また、この例から、英語に似ている単語が多いこともわかるだろう。

発音はどうか。「ドイツ語はローマ字式に読める」というのは言いすぎだが、確かに単独の母音字 *a i u e o* は常にアイウエオと読めばよい点など、つづりとその読み方の関係はとてもシンプルだ。母音はあまり弱化せず、子音もはっきりした音が多いので、ドイツ語の発音は小気味よい。「教授」を表す *Professor* の発音は [profeso:ɔ] で、*o* は律儀に [o] の音を保つ（英語の [prɒfesə] のようにあいまい母音にはなら

ない)。ドイツ語由来の *Schanze* (シャンツェ) や *Leipzig* (ライプツィヒ) などの単語や地名からは「シ」、「ツ」、「ヒ」といった子音の歯切れよさを感じることができるだろう。

ドイツ、オーストリア、スイス、リヒテンシュタインなど、ドイツ語を公用語とする国はいくつもあり、ドイツ語人口は1億人を超え、EU (ヨーロッパ連合) 域内ではいちばん多い (2位はフランス語、3位は英語)。ドイツ語の通用する国となればさらに範囲は広がる。皆さんの中にも将来、研究やビジネス、旅行などで実際にドイツ語を使うようになる人がいることだろう。また、仮にそうではなくても、受験勉強から解放された今、新しい外国語を学ぶということは、実際にことばの習得を体験しながらその仕組みと機能を理解するという意味で、皆さんの知性を大きく高めることになるはずだ。言語は人間にとって本質的な能力なのだから。



Deutsche Wurst ドイツのソーセージ

2. ことばの学び方

ことばは形と意味からできている。ことばの学習とは、それを結びつけることだ。形はつづりを見たり、発音を聞いたりすればわかる。厄介なのは、意味は人の心の中の出来事で、捉えようがないということだ。科学者が人工知能のプログラムを組むように、教師が学習者の頭の中に形と意味をセットにして書き込むことができれば簡単だが、そんなことは不可能だ。そういう意味で、語学教師は、実はことばを「教える」ことができないのだ。できるのは、学習者がことばを学ぶ場を提供するということだけだ。もちろん、できる限り形と意味が結びつくように工夫を凝らした場を。

ことばの学習には三つのステップがある。「理解する」、「覚える」、「使ってみる」だ。まず文法の規則や単語の意味を理解し、覚える。そして、その文法と単語の知識を使って、文を読んだり、文を作ったりしてみる。それに成功すれば、ことばの形と意味がうまくつながったと思ってよいだろう。大事なのは、「使ってみる」段階でいちいち日本語に置き換えずに、ことばの意味そのものを考えることだ。逐語訳をすれば、これから学ぼうとすることばはたちまち頭から消え去り、残るのは日本語の形と意味ばかり。これで外国語を学べるわけがない。和訳は全部だめと言うつもりはないが、まずすべきことは原文の理解であり、それなくしては和訳もありえない。

私自身の授業からの例だが、例年12月か1月には授業中に学生にドイツ語でこんな質問をする。*Würden Sie den Studenten erlauben, mit dem Auto zur Universität zu kommen, wenn Sie der Rektor wären?* これは「もしあなたが総長だとしたら…するでしょうか」という非現実話法の複文で、しかも *zu* 不定詞句(英語の *to* 不定詞句)を含む、かなり複雑な質問文だ。もちろんこんな質問をするからにはそれなりの下準備をするのだが、「はたしてわかってくれるかな?」と、いつもハラハラする。それでも何回か質問を繰り返すうちに、首を縦に振って「うん、わかった!」というサインを送ってくる学生が出てくる。そして正しく、*Ja, ich würde den Studenten erlauben, ...* あるいは *Nein, ich würde den Studenten nicht erlauben, ...* と答えられた学生の顔には「やったあ!」と書いてある。(実は私も「やったあ!」と思っている。) そんなとき、この学生の頭の中で形と意味はしっかり結びついていることだろう。こうした成功体験を積み重ねることによって、頭の中に形と意味が結合した点ができ始め、その点と点がつながって線を成し、線が立体的に絡み合って複雑なことばの体系ができあがっていくように思う。その過程を楽しみながら体験し、ことばの仕組みとその働きに対する洞察を深めてほしいと願っている。



Häuser mit Blumen am Fenster 窓に花のある家々

3. 辞書選び —事始め—

(1) 学習辞典とは

ことばの辞典は、見出し語をアルファベット順などに並べてその意味や用法を適切な方法で記述するのが使命だが、昔はその条件だけを満たしたような辞書を片手に外国語を習い始めたものだ。探している意味がなかなか見つからなかったり、記述自体が難解だったり、初心者にとってはとっつきにくい辞書だった。

ドイツ語界でその流れを大きく変えたのは『同学社版・新修ドイツ語辞典』（同学社、1972年）であったと思う。習い始めで文法をよく知らなくても引けるようにする、という発想が根底にある。音声記号を知らなくても単語が読めるように、発音を仮名で表記したのも同じ精神の表れだ。その精神を引き継ぐ辞典はその後、数社から出版されるようになり、現在に至っている。これらの学習独和辞典では、学習途中に出会う重要な語に特にスペースを割いて詳しい説明が付けられるようになり、単に意味だけではなく、変化形、用法の注意、類語などを含めた、語の多角的な理解が進むように工夫されている。また多くの図解も理解を助けている。「ことばの学習とは形と意味を結びつけることだ」と上に書いたが、実は単語の形も意味もひとつではない。語形は変化し、文脈によって変わる意味もあれば、類似する語と比べて初めて明解になる意味もある。このように単語をいろいろな角度から眺めることで、その単語が本当の意味で「理解」できるようになる。学習の初期段階においてはとても大切なことだ。そういう意味で、学習独和辞典はドイツ語を始める人たちの強い味方になるはずだ。

ここでもうひとつ、ドイツ語の正書法改革に触れなければならない。正書法とはつづり方のことだが、ドイツ語の正書法は1998年に一度改定され、2006年に再度改定された。（よいと思ったことがよくないこともあるのだ！）この2006年版の正書法に準拠するとともに、将来の使用にも耐える収録語数を持つ辞書として、次の3点を挙げる。

『クラウン独和辞典 第4版』（三省堂、2008年2月）

1858 ページ（独和見出し 6万語、1726 ページ／和独（推定）6500語、57 ページ）4410 円

『アポロン独和辞典 第3版』（同学社、2010年2月）

1818 ページ（独和見出し 5万語、1674 ページ／和独 4000語、56 ページ）4410 円

『アクセス独和辞典 第3版』（三修社、2010年4月）

2160 ページ（独和見出し 7万 3500語／和独 1万 3500語、100 ページ）4305 円

3点とも、独和本体を新しいつづり方で引くことができるのは言うまでもない。違うのは従来のつづり方への対処の仕方だ。『クラウン』は新旧表記の対照表を巻頭に掲げ、そこで新しいつづり方を確認できるようにして、独和本体には新しいつづり方だけを出している。『アポロン』もだいたい新しいつづり方だけを出しているが、従来のつづり方を探していくと、それがあべき「位置」に新しいつづり方が見つかるようになっており、必要に応じて参照先も示してある。『アクセス』はさらに、従来のつづり方、新しいつづり方のどちらで引いてもちゃんと見出し語があり、必要に応じて参照先が示してある。正書法が新しくなったとはいえ、現代ドイツ語の文献の大半は従来の正書法で書かれたものだ。それにも対応できるように、どの辞典も苦心している。その結果が三者三様であるのがおもしろい。

上記3点は、付録として「和独」を備えている。『クラウン』と『アクセス』が原則として日本語に対応するドイツ語の単語そのものを示すのに対して、『アポロン』では、「和独」自体でその単語の使い方

もわかるようになってきている。使い方は独和本体で調べることにして収録語数を増やすか、「和独」である程度記述して二度引きする手間を軽減するか、ここにもコンセプトの違いを見ることができる。

なお、2006年版の正書法に準拠した辞典としては、初級者に特化した『初級者に優しい独和辞典』（朝日出版社、2007年、757ページ、独和見出し1万5000語／和独26ページ、2730円）や、一般向けの『デイリーコンサイス独和・和独辞典 第2版』（三省堂、2009年、独和見出し5万3000語、824ページ／和独2万5000語、601ページ、3360円）もある。

また、2006年版の正書法には対応していないが、『フロイデ独和辞典』（白水社、2003年、1917ページ、独和見出し7万5000語、1796ページ／和独57ページ、3360円）のように優れた辞典はほかにも多い。それらについては、中嶋忠宏 本学名誉教授がお書きになった詳しい解説があり、ご本人の了解を得て、次項「4. 辞書選び 一極め付け」に掲載するので、ぜひ参考にしてほしい。

（2）電子辞書

「紙の辞書と電子辞書、優れてるのはどっち？」「紙の辞書。だって開けば出てるもん！」もちろん、電子辞書は便利な道具だとは思いますが、ただし、ドイツ語の語感もかなり身につく、辞書のどの辺に探している情報がありそうかわかっている人にとってのことであって、これからドイツ語を学ぼうとする人にはあまり向いていないように思う。上の「（1）学習辞典とは」でも書いたように、単語というのは意味も使い方もひとつではない。学習初期に出くわした単語を本当の意味で理解するには、見出し語のもとに記載された事項のあちこちを眺める必要がある。電子辞書は画面が小さくて見通しがきかない。自ずと、教材に出てきた単語の訳語の検索だけに終わることが多くなる。これはその場しのぎの間に合わせであって、ことばの学習とは言えない。スクロール機能があるといっても、紙の辞書を開いて目でパッパッと何か所も見比べるようなわけには行かない。図解もないのだ。

一度、紙の辞書を開いて、得られる情報量を比べてみてほしい。それでも、という方には…

EX-WORD XD-A7100（カシオ計算機、『クラウン独和辞典 第4版』、三省堂、2008年2月、他）

SL901X、SR-S9001 等（セイコーインスツル）＋ドイツ語コンテンツカード（『アクセス独和辞典』、三修社、1999年3月、他）

Brain（シャープ、『アクセス独和辞典 第3版』、三修社、2010年4月、他、これは未確認情報）

*価格等も含め、詳しくは生協店頭で確認のこと。



Hopfen ホップ

4. 辞書選び —極め付け—

[ここからは、中嶋忠宏 本学名誉教授 がお書きになった詳しい解説]

『パスポート独和・和独小辞典』（白水社、2940 円）

収録されている語数が少なく単語帳のようで、学習用辞書としては薦めにくい、と初見では思ってしまう。ところが、けっこう使い勝手がいいのだ。活字が大きめでレイアウトも見やすく、持ち運びにペンリーで、手によくなじむ不思議な雰囲気と存在感をもっている。その品格はなかなかのもの。以下に述べる辞書たちに語数では負けても、その他の点では太刀打ちできる、コンセプトのある辞書といえる。こんなにコンパクトながら、な、な、なんと、ドイツで使われているポケット・ティッシュの商標 **Tempo** まで載っている！逆に、初学者には **Habilitation**（大学教授資格取得試験）は不要ではないかとも思う。付録の《ジャンル別語彙集》は図解入りで、限られたスペースの割には各分野のタームをきめ細かく集めている（付録ではなく、本体かも）。《独和+和独+ジャンル別語彙集》で三位一体のこの辞書は、内容もさることながら、ただ持っているだけで満足できる、魅力に満ちた辞書。本格的に使いこなすには不十分であるけれど、教室へはもちろん、どこにでも楽々持っていける可愛い本書で、ドイツ語が楽しく、気持ちよく勉強できればメダタシ、メダタシ！

『エクセル独和辞典』（郁文堂、2800 円）

コンパクトなボディながら用例が豊富なのが最大の特徴。用例が多いということは、独作文をするときにも大助かりということ。要所要所に類語や文法説明のカコミが設けられているのも親切。付録の《人称変化表、格変化表》、《文法キーポイント》も予習・復習にぜひとも活用したい。辞書こそは、単語の意味を調べるだけでなく、教科書を総合的に理解するためにも最良の相談相手になってくれるということを、本書で実感してほしいものだ。

『新アルファ独和辞典』（三修社、3899 円）

重要語は特に大きな赤色の活字で印刷してあり、見やすく眼にやさしいレイアウトは他にならぶものがない。イラストや写真を配置してあるのも楽しい。特定の重要単語にかぎって見出しのあとに付けられた《人称変化（動詞）》や《格変化（名詞等）》の表を活用すれば、「イッヒ・ビン、ドゥ・ビスト……」もばっちり。その分だけ語数の少ないのはやむをえないけれど、例文や用例はいずれも教室での授業にそのまま役立つようなものばかりで、初級テキストの学習には〈即戦力〉となるだろう。

『プログレッシブ独和辞典 第2版』（小学館、3990 円）

コンパクトながら実に良くできた学習独和で、感心させられる。簡潔で要を得た語義説明ばかりではない。Abend（夕方）を引けば、ユダヤ・キリスト教の世界観では一日が夕方始まるとされていたので、Abend にはかつて〈前日〉の意味があったことが、古代ローマでは一年が3月に始まったことが Januar（英 January）の項でわかる。言葉の背景にある歴史的事実にも目配りされている。派生語や合成語もイッパツで検索可能。いい気分である。《言い換え欄》、《複合語欄》、《類語欄》、《関連語欄》、《語源欄》が随所に設けられていて付加価値を高めている。《類語使い分け表》や《機能動詞欄》といった新工夫も盛りこまれている。海は海でも、太平洋や北海、地中海の〈海〉はそれぞれドイツ語でなんとはいえるのか、《類語使い分け表》が教えてくれる、といった具合。弟分にあたる『ポケット・プログレッシブ独和・和独』（3000 円）もおすすめ。活字が小さいのはガマンする

として、使い勝手はよく重宝する。小学館の独和は、ポケット版から後述の『独和大辞典』まで3種類のサイズのバージョンがラインナップされていることになる。〈スリーナンバー車から軽自動車まで〉揃っているのは、独和辞書界ではここだけ！

『アクセス独和辞典 第3版』(三修社、4305円)

『アクセス独和』は今春デビューした第3版にいたってきわだった進化形を見せる。「類書をしのぐ充実の見出し語数」をうたっているとおり、たいていの単語はこれで調べられる。しかも、大規模な語彙データベース(コーパス)に基づいているので、ほんとうに知りたい単語や用例にアクセスできる。実用性重視の独和なのだ。ドイツで冬の時期の天気予報で毎日のように耳にする〈にわか雪〉の *Schneeschauer* も独立した見出しとして出ているし(*Schauer* 自体にその意味もあるけれど……)、ザルツブルク名物のスフレ *Salzburger Nockerl* だって載っている。*an* を引けば、前置詞の説明が2頁にわたって解説されるし、*haben* の項では完了形の説明が挿入されている。辞書と文法教科書とのドッキングみたいなスタイルは、類書には見られないユニークネスで、こんな辞書見たことない!《発信型ドイツ語会話》や《和独》等付録も充実している。いいことづくめではあるけれど、いかんせん、語数が増えて、旧版よりも分厚くなってしまった。メタボ気味の本書を教室に持ちこむのは厳しいだろう。自宅で本書を使ってじゅうぶんに予習したうえで授業には教科書やノートだけで臨む……肉体的に楽をしたければ、これっきゃない。もっとも、デジタル版が電子辞書に搭載されればこの問題は解消される。

『アポロン独和辞典 第3版』(同学社、4410円)

学習用独和として定評のあった前身の『新修ドイツ語辞典』をベースにした息の長い歴史をほこる辞書。これまでこまめに改訂が行われ、最新語も積極的に取り入れてきている。注意すべき重要動詞の人称変化が一覧表になってわかりやすく、基本語には代表的な用例を赤枠のカコミであげているといったふうに初心者向けの配慮がよく表れている。随所に《ドイツ・ミニ情報》といったコラム欄が張り巡らされていて、〈読む辞書〉の性格も十分。ドイツでは16歳からの飲酒が認められていることも、ドイツの喫煙・禁煙事情も手に取るようにわかる。コラムを拾い読みしただけで、キミはもういっちょまえのドイツ通といえるだろう。《福祉用語》、《医療用語》、《環境用語》、《コンピュータ用語》等分野別にわけて専門用語を本文中にまとめているのも本書のみ。《簡単なドイツ語会話「使ってみよう」》や、付録の《和独の部》、《手紙の書き方》は、それぞれ初級の会話や独作文なら不足はしない。

『クラウン独和辞典 第4版』(三省堂、4410円)

三省堂の総力を結集して実現した学習用独和。一見初心者用のやさしい顔立ちであるが、なかなか奥行が深い。収録語彙も語義説明も過不足なく、しかも用例はたっぷりで、総じて優等生といった印象を受ける。クラウン英和や仏和と同じ血統を誇るのだ。注目すべきは、ぬかりのない文法説明で、これこそこの辞書の真骨頂であろう。〈*Von Mensch zu Mensch*〉(うち解けて)の *Mensch* が無格である点に触れて、〈聯語(れんご)〉として詳しく説明しているのも評価できる(研究社『独和中辞典』、同学社『新アポロン』も触れている)。形容詞の *viel* も英語の *many* と *much* に対応させて説明しているのは分かりいい。中級の読物を予習していると、よく *richtunggebend* とか *richtungweisend* といった合成された形容詞・副詞が出てきて、慣れないと雲をつかむように理解しづらだろう。ドンマイ!両方ともぬかりなく調べられる。巻末付録の《文法小辞典》は価値ある優れもの。アルプスの少女ハイジ(*Heidi*)は見出しで引けば、*Adelheid* の愛称形であることがわかる。欲を出して《小辞典》の〈愛称形〉の項を読めば、*-heid* が *Heidi* になる仕組みがわかるはず。

上の〈聯語〉の場合も同様で、本文の文法説明をこの《小辞典》は連動して補っているのだ。予習にも復習にも鬼に金棒である。

『フロイデ独和辞典』（白水社、4000円）

このクラスでは、いっとう新しい独和辞書。話法の助動詞 *sollen* をひっばってみると、用例が充実しているし、おまけに命令文を間接話法に書き換えるときの要領や、*müssen* との相違などじつにきめ細かな説明までついていて完璧。Bildschirmschoner（スクリーンセーバー）や *browsen*（ホームページを見る）といった最新語も多数収められている。随所に文化的な記述も盛り込まれていて、百科事典的にも使えるのは便利。付録も充実している。なかでも《聖人暦》や《ドイツ歌曲選》などは独和辞典で初めての試み。語数も7万5千語と多く、立派に中級辞書の貫禄である。全体として辞書の作りに白水社のお洒落な感覚がよく表れていて、いつまでも〈歓び〉をもって使えるだろう（フロイデ=Freude とは〈歓び〉の意）。

『新コンサイス独和辞典』（三省堂、4000円）

昔からの伝統をほこる旧『コンサイス独和』が全面改定されて装いも新たに登場したニューフェース。内容的には旧版を踏襲しているもので、申し分なし。それでいて、こんなにコンパクトになってしまっているのは驚異的。片手にらくらくと納まってしまう。この片手に納まる——というのはとても大事なことで、またアリガタイことである。いくら立派な辞書でも手が疲れるようだと言率がよくない。結局、学習用辞書との相性は、内容もさることながら、〈手との相性〉ということにつきるのだ。外国タバコのような表紙のデザインが意外とシャレていて、スマートに辞書を引きこなしたいキミにはイチオシ。

『マイスター独和辞典』（大修館、3900円）

ワインやビールの種類までわかるといった百科全書的な性格を兼ね備えた総合タイプの独和。ベースになる語義部分の構成や図解の方法も極上の仕上がり。あちらこちらでイラストや図表が立体的に張りめぐらされていて便利。たとえば、《複合語》の説明はまことにユニークである。つまり、*Fahrt* に前綴り *ab* をつけて *Abfahrt*=〈出発〉、*aus* をつけて *Ausfahrt*=〈発車〉といったように造語関係が一目瞭然。語彙も驚くほど豊富で、中・上級まで使える。文字どおりマイスター・クラスの貫禄あり。ただし、この辞書を使用する場合、性の区別が前についた定冠詞の形で示されている点と、他動詞・自動詞の区別が明示されていない点は類書とは違うので注意を要す。「+4格」が他動詞のしるし、それ以外は自動詞と思えばよい。なお、本書を手のひらサイズに縮小した『ハンディマイスター独和辞典』（3600円）も用意されている。文字どおりハンディで、携帯にはすこぶる便利。驚くべきことに、ひとまわりもふたまわりもチツチャなサイズながら新語を15000語もプラスしているので、この子は親を越えている——出藍の誉れとはこのこと。ただし、字が小さいので、視力に自信があることと、例外的な場合をのぞいて、発音記号が省略されているので、発音規則をマスターしておく必要があることの二点がクリアできれば、こんなに重宝するものはない。ドイツ、オーストリア、スイスへの旅行には最適。アイヴォリー・ホワイトの表紙がまぶしい！

『新現代独和辞典』（三修社、3800円）

古典作品から現代文学や新聞・雑誌まで広い範囲をカバーできる実力派の辞書。付録の《修辞法》、《韻律法》は類書に例がない独自のもの。《分綴法》、《句読法》とともに、とりわけ人文系のテキストの深い読みのために活用できる。新語が多く取り入れられているのが、ひと味ちがうところ。上記の『マイスター独和』と同様に *Bolzplatz* といった最近の俗語を載せているのも新しさへの対応

といえよう。もっとも、「むちゃくちゃな試合のサッカー競技場」という訳語はもう一工夫ほしいところ。一方、**jn zum Ritter schlagen**（刀礼を施して騎士にする）なんて古めかしい言い方も載っていて、騎士物語を読んだりするときは大助かり。ともあれ、内容もさることながら、手に持ったときの感触もなかなかヨロシイ。それに、活字の見やすさは抜群。◆印の《用例》や▲印の《関連語》といったレイアウトのうまさは見やすく目の健康によい。CD-ROM「Bertelsmann 新正書法辞典」（WINDOWS版）付も出ている。

『独和辞典・第2版』（郁文堂、4300円）

旧版を全面改訂してリリースされた〈決定版〉独和。旧版の利点をすべて踏襲したうえで、印刷の調子も改善されたので、ずいぶん見やすくなっている。豊富な例文とともに、文法説明も充実している。見た目には地味で目立たないけれど、随所にしかけられた、さまざまな改良・工夫は専門家からも高く評価されている。〈通〉向きの独和なのだ。ドイツ語独特のニュアンスをもつ **Gemüt** や **Wesen** も、まず〈心〉や〈本質〉といった具合に基本となる訳語をひとつだけにしぼって、委細は用例によって理解させるやり方は実に明快である。**gehen**（英語の **go**）のように長々と語義説明のつづくものも、ゴチックの数字で区分されたとおりに見ていけば、意外と楽にサーチできる。控えめな外観ながら中身の濃いこと！能あるタカは爪を隠すのである。それにしても、この辞書は目が疲れる。もうすこし見やすいレイアウトにならないものか？

■その他の辞書たち——ドイツ語辞書の鉄人になろう！

中級から上級に進むキミには、とっておきの独和を薦めたい。

『独和中辞典』（研究社、4120円）

語数2万語の本格的な和独がついた中辞典。独和と和独のドッキングは、独英と英独が合体しているといったふうに欧米の学習用外国語辞書ではあたりまえのスタイルである。本書は独和も和独も、用例が多いのが一大特徴。和独の部も活用すれば、読解に役立つばかりか、作文するときにも重宝する。たとえば、「おもう」を引いてみると、**glauben, meinen, denken** の違いがじつに分かりやすく例文で説明され、さらに推測をするときに使う **annehmen, vermuten**……と続く。和独の部が、独和の機能も果たしている。動詞 **tun** も、和独の部の「する」を参照するようにとの指示があり、**machen** との違いがわかるようになっている。つまり、独和が和独を、和独が独和を、それぞれ補っているのだ。これぞまさに〈ドイツ語活用辞典〉と言ってよい。こうした独和と和独との連携あるいは一体化は、インターネットで使用されるハイパー・テキストのリンケージの技法を使えば、ずっと効率よく具体化できるだろう。デジタル化できればすばらしいものになるはずだ！この辞書は、そうしたアイディアの提起という点では独自のもので、賞賛にあたいする。

『独和大辞典 第2版』（小学館、23000円）

最大の語彙数をほこる独和辞典界の横綱である。**die möbiussche Fläche**（メビウスの帯）、**Angelologie**（天使論）もこの辞書でようやく調べがつく。**Wettkampfgymnastik**（新体操）が他の独和には出ていなくて、本書のみ収録しているのは意外や意外！**Jetzt wird geschlafen!**（さあもうねんね）といった例文もあり、表現辞典としての価値も高い。**Guten Tag!** も「（日中のあいさつとして）こんにちは、いらっしやいませ、お帰りなさい；ただいま、行ってまいります、行ってらっしゃい；（拒絶の返事として）とんでもない；冗談じゃない；まっぴら[ごめん]だ」との説明があり、見事というほかはない。ただただ脱帽するのみ！オオキイことはイイことなのである。要所にイラストもついているし、また説明があまりに長く、詳細になる基本語は見出しの次のカコミに要点が整

理してあるなど、分厚い割に使い勝手はよい。なお、内容はそのまま版型を縮小しただけの『独和大辞典[コンパクト版]』(7500円)も用意されている。活字が見にくくなったのは我慢するとして、なによりも値段の安いのがありがたい。専門文献の解読のみならず、ドイツ語のクロスワード・パズルをやる時にも必携の一冊である。現在出ている独和辞書では最も大部な本書が、実は、簡略版ではあるけれど、カシオの電子辞書 XD-GF7150 に搭載されている。かさばって持ち運びに不便とはもう言わせない！

和独辞典は意外と使い方がむずかしく、最初はなくともかまわないが、ぜひとも一冊欲しいとなれば、以下の2点から選べばよい。

『和独辞典』(郁文堂、3400円)

見出し語にひらがな表記方式(五十音順)を採用した元祖。ローマ字表記よりも馴染みやすいだろう。サイズも手頃で使い勝手はよい。語数はこれくらいでいいのだ。〈やっぱり=やはり〉をドイツ語でどう言うか、例文でしっかり教えてくれる。付録の《手紙の書き方》や《会話慣用表現》もコンパクトながら実用的価値は高い。《文型一覧》はユニークで、ドイツ語の文章感覚を養うのに活用できるはず。なお、本体部分で《楽譜》や《手》、《天気図》のように関連する語彙を図解して一括表示しているのはドイツの『ドゥーデン図解辞典』のやりかたで、このアイディアはもっと多用してもよい。

『新コンサイス和独辞典』(三省堂、4200円)

旧版を全面改定したリニューアル版でコンサイスの和独辞典もイメージ一新。見出し語が、郁文堂の『和独』にならって五十音順のひらがな表記に改められたのが大きな変更点。新語や専門語も多く取り入れられているので充実度アップである。〈花粉症〉や〈納豆〉、〈雛祭り〉も載っているし、〈ぼちぼち〉や〈ちやほや〉、比喩的用法としての〈天狗=てんぐ〉も詳しい。『新コンサイス独和辞典』と肩を並べればまぶしいツーショット、しかし、『クラウン独和』とも結構なコンビとなるだろう。

教室の授業で、英語とドイツ語がいろいろの面で親戚みたいに近い関係にある、といった話を聞くことがあるだろう。両方とも印欧語族ゲルマン語に属する。そんな意味からも、英語に強いキミにも、英語に弱いキミにもぜひとも独英辞典を使ってみてほしいものだ。

以下は、独・英、英・独、独・独など。

『The Pocket Oxford German Dictionary』(Oxford Univ. Press)

独英・英独が一巻にセットされている。両部とも用例を極力省略し、しかも訳語が厳選されているので、初心者にはかえって使い勝手が良い。詳しい用法は独和で調べればいいのだから。このポケット版で物足りなくなったら、同じオックスフォードの系列で Concise 版や Standard 版へとグレード・アップできる。

Langenscheidt 社の独英・英独シリーズも手ごろである。ポケット・サイズのものからデスク・サイド版まで種々のエディションがある。購入にあたっては洋書店で実地調査するとよい。黄色の地にブルーのL字が浮かんだ表紙が目印。

『Cassell's German-English / English German Dictionary』(Macmillan, New York)

ショコラ色の表紙で、サム・インデックスの付いた造本がシブイ。米国マ社で出版されているにもかかわらず、Zentrum は centre のみ、Arbeit も labour のみ、Aufzug は lift が先に出てくる、と

いった具合で、中味は頑固なまでに英国風。熟語・合成語の表示が見やすく、活字やレイアウトも鮮明で実に使い勝手がいい。

『Oxford-Duden Bildwörterbuch - Deutsch und Englisch』(Dudenverlag)

すべてイラストで事物を確認できる図解辞典。ただし、収録されているのは名詞だけ。

ドイツ語にとりつかれてしまったキミには、独独辞典の使用をすすめたい。英英辞典を使いこなしているキミなら、独独の効用については言うまでもないことだろう。ビギナー向けのものが諸種でているけれど、手軽に扱えるものとして、

『Langenscheidts Grosswörterbuch Deutsch als Fremdsprache』(Langenscheidt) をあげておく。
〈Deutsch als Fremdsprache〉——つまり、ドイツ語を外国語として学ぶという観点から編集されているので、親しみやすい独々辞典となっている。

ドイツ語の百科辞典入門も兼ねて、

『Der Brockhaus in einem Band. Neu von A bis Z』(Brockhaus) あたりに親しんでほしい。

■参考書

・関ロー郎『マイスタードイツ語コース』(1 文法、2 表現、3 語法、大修館)

セキグチ先生のマイスター三部作。まるで教室で授業を受けてみたい話をしっかり聞いているうちに、自然にドイツ語が分かるようになる。再履修のキミにもウ・ッ・テ・ツ・ケ! 第3巻の『語法』は中級・上級向け。

・小坂光一『マニュアルドイツ語 ABC』(郁文堂)

〈マニュアル〉と銘打っているけれど、パソコンやワープロの〈取り扱い説明書〉よりはよほど親切で分かりやすい。説明がビジュアルになっているので、試験直前の復習と整理にも重宝するはず。

・早川東三『NHK ドイツ語入門・第2版』(日本放送出版協会)

ドイツ人の生活に即した平易で基本的な文を読みながら、ドイツ語を楽しく、総合的に学べる。

・浜川祥枝『ドイツ文法の初歩』(白水社)

接続法の説明も懇切でいい。親しみやすい充実した文法書。索引も完備。

・三瓶慎一『CD で学ぶドイツ語入門』(白水社)

CD 付きのユニークなドイツ語入門書。何がユニークといっても、「駅のアナウンスや CM、ニュースやオペラ公演の案内など、臨場感あふれる音の数々を収録。こんな CD、聴いたことない」がユニーク。完了形を作るときにどうして助動詞の *haben* と *sein* の区別があるのか、どうして英語にはないのか……といった、類書には見られない文法や語法の説明がさりげなく書かれているのもまたユニーク。ユニークてんこもりで、中級や上級を自負する向きにも役立つ。どんなことでも常に初心に立ち戻ることは大切なこと!

・中島悠爾・平尾浩三他『必携ドイツ文法総まとめ』(白水社)

初心者も中級の学習者も、文法事項であやふやさを感じたとき、手際よくアドバイスしてくれる強い味方。名詞の格の用法もしっかりまとめられているし、奥が深い接続法の用法も、これで全体的見取り図が理解できる。コンパクトながら、中身は充実しているのだ。バッグに入れても邪魔にならないサイズで、持ち運びも楽な〈ドイツ文法ハンドブック〉としておすすめ!

・ミッシェル他『これからのドイツ語』(郁文堂)

斬新な視点から書かれていて、内容も面白く、つつい読みでしまう。

・濱川祥枝『現代ドイツ語』（白水社）

文例が豊富。索引完備。

・在間 進『ドイツ語文法』大修館）

代名詞が半ば過ぎてから出てきたり、教科書の進度には合わないけれど、文法現象をこうした視点から見なおしてみるのも勉強になる。

・関口存男『接続法の詳細』（三修社）

ツウ向け。接続法の勉強のみならず、ドイツ語のさまざまな現象を解明するための展望を与えてくれる古典的名著。本書を通読できれば、ドイツ語の文法は免許皆伝！

英・独を比較しながら学ぶというのは、両者の歴史的な関係を考えただけでも有効な勉強の方法であろう。

・福田幸夫『英語活用・ドイツ語入門』（白水社）

・佐々木備一『新英語から入るドイツ語』（郁文堂）

単に英語との比較だけではなく、**nicht** と **kein** の使いわけや、形容詞の格支配の説明等、随所にユニークネスが見られる。

・Eggeling『Dictionary of Modern German Prose Usage』（Oxford at the Clarendon Press）

例文の多くがドイツ文学作品から引かれているのは魅力。文法の基礎ができていればどんどん読んでいけるだろう。不定代名詞として使われる **welch** の説明など、おおかたの独和辞書のそれとはひと味違う。スルメのように噛めば噛むほど味が出てくる、価値ある一冊。

解釈力を養成するためのものとして、

・小栗 浩『独文解釈の演習』（郁文堂）

（現在は改訂版として、青木一郎「わかりやすいドイツ語の構文と解釈」が刊行されている）

・信岡資生他『中級ドイツ語の研究』（朝日出版）

・有田 潤『文法復習・やさしい独文解釈』（三修社）

・横山 靖『独文解釈の秘訣 I, II』（郁文堂）

大学院入試等の〈傾向と対策〉として定評がある。

特殊なものとして、

・森 五郎他『医科のドイツ語』（郁文堂）

・青木他『理工科のドイツ語』（郁文堂）

……上の2冊とも対訳式。取り上げられている文章が古めかしいものばかりで、DNA やニュートリノの話題こそ出てこないけれど、自然科学の論文を読むための基礎訓練に役立つだろう。

・上田浩二『ふれあいのドイツ語』（白水社）

独作文というと気が重いかもかもしれないが、本書ではそうした心配は無用。かつて NHK テレビ講座で好評を博したウエダ先生から楽しいお話を聞きながら、コミュニケーションの時代にふさわしい、生きたドイツ語表現の基礎力がつく。

・岩崎英二郎『会話風やさしい独作文』（第三書房）

独作文のコツを、まるで手品の種明かしをするように教えてくれる好著。

・伊藤／クルマス『ドイツ語表現辞典』（朝日出版）

・関口一郎『ドイツ語表現ハンドブック』（白水社）

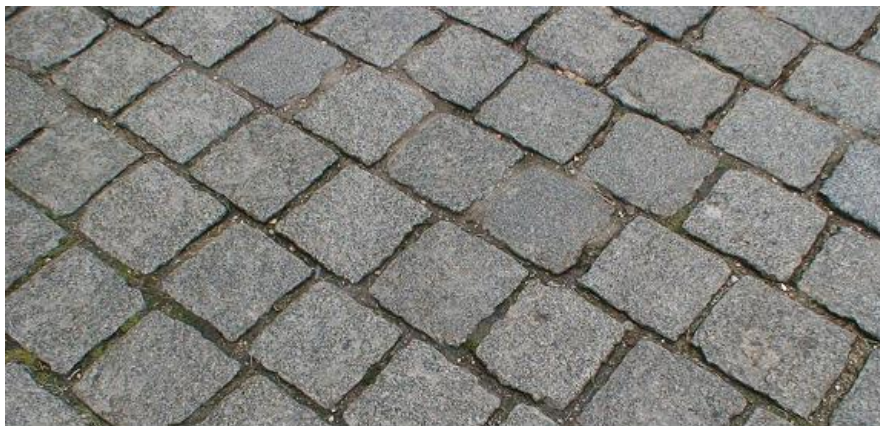
・イシュトヴァーン『ドイツ基本語活用辞典』（第三書房）

……上記の辞典とハンドブックの3冊は、独和辞典のところで取りあげるべきかもしれない。辞典のスタイルではあるけれど、独作文の練習書として使う手もあるだろう。

- ・宮内敬太郎『ドイツ語の手紙』(白水社)
- ・岡島孝一『楽しいドイツ文手紙の書き方』(郁文堂)
- ・村田・インゲボルク『改訂・標準ドイツ会話』(白水社)
- ・石川・サスキア『ドイツ会話 40 章』(白水社)
- ・W. ミヒェル／新保『ドイツ トラベル会話』(郁文堂)

出色のドイツ語会話ハンドブック。トラベルのみならず、ドイツ生活の様々な場面についての解説が詳しく、気の向くままにひもとくだけでも楽しい！付録に CD が付いているのも、会話の書としては当然のこと。

- ・在間進『携帯版ドイツ語とっさのひとこと辞典』(株式会社 DHC)
 - ・在間進／亀ヶ谷昌秀『独検合格 単語＋熟語 1800』(第三書房)
- 独検にも果敢に挑戦していただきたい。



Pflaster 石畳